

## 自閉症コーナー

### 大阪自閉症教育研究会の紹介

レポーター藤岡聖典（本部書記）

大阪自閉症教育研究会は、大阪で小中学校の養護学級の担当の先生、あるいは通常学級で自閉症や自閉症と思われる子どもの指導に悩んでおられる先生、幼稚園や保育所で自閉症あるいは自閉症と思われる子どもの指導で悩んでおられる先生を対象に、堺市立百舌養護学校の金井先生が継続して行われている自主研究会です。11月28日に第8回目の会が東大阪市成和小学校で行われました。すでに大阪各地から多数の方が参加されておられますが、このたび、取材を兼ねて参加いたしましたので、報告します。

#### 参加報告

『自閉症の障害特性に基づいた教材教具ならびに指導上の工夫』

報告者 東大阪市立成和小学校 大山説子先生

自閉症の心理学的な障害特性に基づいた教材とはどのようなものなのか、パワーポイントによりわかりやすく紹介されました。視覚支援を中心に、状況の見通しを持たせるための工夫についてお話があり、参加者との意見交換のあと、大山先生の教室の中を見学させていただきました。

教室は、自閉症に必要な不可欠な視覚支援による工夫がたいへん丁寧な工作で行われていました。例えば、落ち着くためのスペースや自立課題をするスペースがきちんとコンパネ等でしきられ、構造化されています。余分なものは見えないように収納ケースに入れるか、カーテンで覆われています。スケジュールやその他の掲示物は個々の子どもが自分で見てわかるよう、自分でも入れ換えたり工夫できるようになっていました。

学習用教材は大山先生の手作りですが、アイデアにあふれ、市販できるのではという出来ばえで、しかも個々に応じてアレンジが可能な点がすばらしいと感じました。ドラえもんボックスは、上から字のカードを入れるとそれに対応した絵カードが出る（実は裏返るだけなのですが、そう見えません。）不思議なボックスです。計算や絵合わせ用カードで正解になると音楽が鳴る教具もありました。玩具の「せんせい」（マグネットで絵を描ける）を使って消える課題の一覧、といった工夫もありました。

個々の意見交換では、ポイントポイントにおいて、経験豊富な金井先生から適切なアドバイスがあり、個々の会員が安心して悩みや疑問点を出せる雰囲気があります。質問も多く、遠方から熱心に通っておられる会員の熱意が感じられる研究会でした。

自閉症研究会のホームページ（金井さんのホームページ）には、近いうちに今回のまとめがあげられると思います。第7回までのまとめは既に上がっています。興味のある方はぜひどうぞ。<http://homepage1.nifty.com/kanaipage/index.html>

金子孝明 My Homepage

